

1989 SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
3	•	•	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	•

●毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ……したく、用意、警戒、防御
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
そなわる……準備ができる、身に付く
...ソナエ アレバ ウレイナシ!!

かわさき
防災広報紙

NO.

55

平成元年2月28日発行

発行・川崎市

編集・土木局防災対策室

〒210 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL.(044)200-2111内線2841

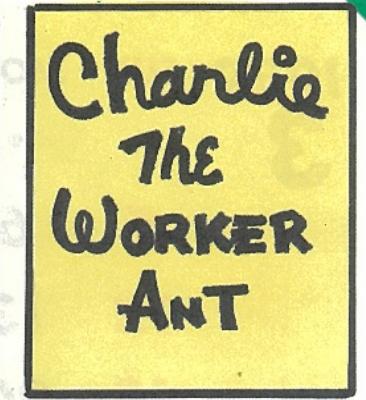


脈は親指でとるな。

知っていましたか、これは応急手当の基礎知識のひとつ。
親指で事故者の脈をとると、自分の脈と間違えることがあります。
人差し指と中指でのどほとけの横を軽く押さえるのが正しい方法。
他にも知っているううで知らないこと結構あります。

災害時は交通や電話が混乱し、
救急車がすぐ来てくれるとは限りません。
応急手当はもちろん診療の代用にはなりませんが、
ちょっとした手当てでケガの悪化を防ぐことができます。
そしてこれは誰にでもできること。
万一に備え正しい応急手当の知識を頭に入れておきましょう。





救急車が来るまでの応急手当で命拾いすることもある。

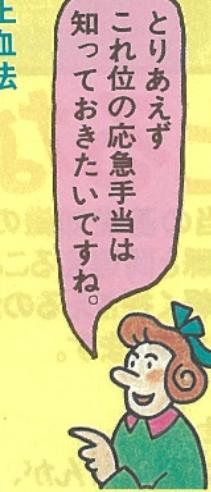
●直接、間接圧迫法でも止血できない時は、棒でしめつける。ただし、時間を記録し、1時間以内に医師に診てもらう。



●血液の流れる途中、止血点を指で強く圧迫する。(間接圧迫法)



●清潔なガーゼ、ハンカチなどで、傷を直接強く圧迫する。(直接圧迫法)
心臓より高い位置で行うとより効果的。

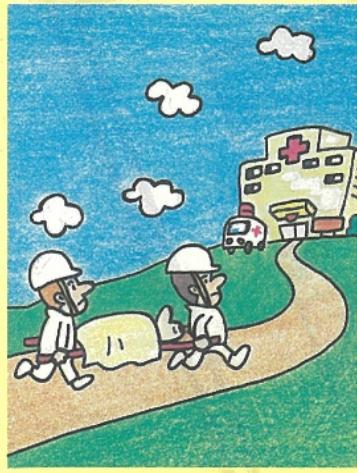


●これ位の応急手当は
知つておきたいですね。
とりあえず

- ① 救急薬品の準備をしておく
- ② 応急手当の方法を覚えておく
- ③ けが人の運び方覚えておく

宮城県沖地震のときは、地震発生の午後5時14分から午後10時までの間に、仙台市内で222件の救急要請がありました。全てに対応することは不可能なため、市民から通報された時点だけがの程度により応急処置の方法を指導し、また、最寄りの医療機関で受診するよう協力を求め、実際に出動できたのは、わずか24件でした。

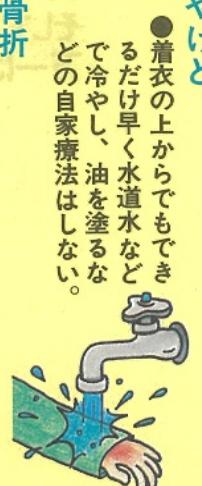
地震時には、一瞬のうちに多くの死傷者がが出ることから、消防機関等だけでの対処は困難ですので、家庭で手当できる者は家庭での手当し、重傷者等であっても近くの病院や救護所に搬送できる者は近所の人たちと協力して搬送する必要があります。



●意識がある場合→本人の最も楽な体位
●顔色が青い→頭部を高く、足を高く寝かせる。
●吐気、嘔吐がある→吐しゃ物が気管に入らぬよう横向きかうつぶせに寝かせる。
●出血がある→傷の部分を高くする。
※原則として飲みもの等は与えない。



●両手をのばして、手のひらを肩甲骨下部に置き1秒間1呼吸の割合で、リズミカルに行う。ニールセン法(図3)の他に、マウス・ツル・マウスもある。



防災 Q & A 9

問

地震に備えて、わが家でも備蓄品や非常持出品を準備しようと思いますが、どのようなものを準備したらよいでしょうか?

答

家族構成によって違ってきますが、おおむね次のようなものが考えられます。

- ①食糧(家族の3日分を目安に)
カンパン・缶詰・ビスケット、インスタントラーメンなど
- ②水(1人1日3L、3日分程度)
水筒やビン等に入れて保存し、定期的に入れかえましょう。
- ③非常持出品
いつでも持ち出せるようにして、次のようなものを用意しましょう。
トランジスタ・ラジオ、医薬品、懐中電灯、マッチ、ローソク、細ひも、貴重品(印鑑・通帳・現金など)、ビニールシート、ポリ袋など。
赤ん坊がいる家庭は、ミルク、ほ乳瓶、紙オムツが必要となります。



防災短編映画・ビデオ完成

自主防災組織の活動を進めていくうえで、参考として、『備える—まちの自主防災組織』を作成しました。この映画・ビデオにより、自主防災組織の必要性、防災訓練実施の方法、町内の避難計画など、映像を通じてご理解いただけるものと思います。自治会・町内会での会合などの際に、是非ご利用ください。詳しくは、防災対策室(200-2111 内線2841)まで。

体験談 54

「宮城県沖地震、市民の対応と教訓」より

仙台市内東部で外科医院を経営しているI先生は、看護婦5名の当外科医院も地震により薬剤や注射器の棚が倒れたり、相手が人がつめかけはじめ、6時から9時頃までは待合室、廊下、玄関とも患者でいっぱいになり、外で待つ人もできました。停電であったため、あるだけのローソクや懐中電灯を待合室や廊下に置きましたが暗くなるにつれて患者の不安が増していくためか泣き叫ぶ者、うめく者などで大変な状態でした。私もローソクのあかりで診察しましたが、家具の下敷になった者など、十分な検査をしないと判断できない者もあり、手がまわらなかったので、軽い外傷患者は看護婦が手当てしました。午後6時過ぎ、救急車が来て患者の収容を頼まれましたが、このような状態でしたので断わりました。

●軽いけがなどは自分で手当をする。
●地震の時はどうしても外科に患者が集中しがちであるが、外科でなくとも治療することができるから近所の病院・医院へ行く。
●医師が判断して重傷の者から治療することになるので落着いて順番を待つ。
●あるような非常時には本当に医師の手当が必要となる患者だけを医師が診察する方針にないと助かる者も助からなくなる。
●その教訓を述べている。

(仙台市消防局
東北工業大学工学部佐賀研究所)